

特 101

702

鷄養卵



所 行 業
社 本 日 之 業



始



緒言

農家の副業として養鶏の有利なることは既に世の定評であります、尤も之れを有利に且つ組織的に行ふと云ふことは仲々六ヶ敷いことでもあります、農業組織も研究せねばならないが、御互の住居して居る村や家庭の状態をも顧みなくてはならぬ、けれども他人に迷惑を懸けないで、愉快に働き、而して澤山の副収入を得ることは誰も希望することでありませう、したならば鶏を飼ふて澤山の卵を最得する傍ら、高いお金を支拂つて金肥を餌の一部に利用して、自給肥料の内でも最も濃厚に肥料成分を含有して居る鶏糞を收得することは、愉快なことではありませんか、又斯う云ふ方法で採卵養鶏を行ふことは時勢の要求であり、此の要求を満さない農家は自然と経営難に陥つて來つゝあることは事實の示すところであり

大正 11. 8. 27
内交

ます、本縣は殊に本邦でも一番先きに發達した養鶏地であり、又養鶏生産物の供給地であります、既に先覺者が模範的の經營をして居るのでありますから、夫れを見習ふ傍ら本書をも参考として御始めになつたら、一層間違ひのない組織的の經營が簡易に行はるゝことゝ確信致します。

採卵養鶏

目次

一、農家として養鶏しなくてはならぬ理由……………	一
二、採卵養鶏を始めて行ふ人に……………	五
三、鶏の好む食物と其の反應……………	一〇
四、飼料配合の要件と配合例……………	一八
五、營養の過不足と病鶏は糞色に依つて見別けが出来る……………	三三
六、一日の日課……………	三六
七、多産鶏と寡産鶏……………	五一



八、鶏の更新は如何するか…………… 五
九、傳染病の豫防と手當…………… 三

採卵養鶏

愛知縣立農事試驗場 高橋廣治述

一、農家として養鶏しなくてはならぬ理由

あなたは農業を営んで居りますか、農業と云ふ仕事は吾々が生活するに必要な食物を作るのが最大の務めでありませう、其の最大の任務を盡す上に必要な條件の第一は、直接國民の生活を支配する職業であると云ふ信念であります、斯う考へて見ると國家として農家程貴い務めはないことになる、先年米價が未曾有に騰貴して國民の生活を劫かしたのも、あなた方が米を作ることと比較的冷膽であつた事も一原因でありませう、又昨年來之れが反動的現象として米價が非常に下落したのも、あなた方が斯んなに高いお米なら確かに利益がある、うんと勉強して

今年こそは昨年の倍額も收穫しようじゃないかと、御互が努力したことも有力なる一原因ではありませんか、して見ると諸君は實にぬらい潜勢力を持つて居るのであります、故に農家程國家として大切な國民はありませぬ、此の大切な國民が近來非常に悲感して居るとは何んのことであります、米が安いとて、繭が賣れないとて、そう悲感しなくてもよい、農家は農家としての努めがありませう、併し收支が持てなくては悲感もしなくてはならぬが、何時も柳の下には鮎は居りませぬ、世の中は常に浮沈もあり、變轉もある、此の變轉極まりなき世の中に生活して居る吾々は、常に不景氣の絶頂にあると考へて劃策して居りさへすれば、如何に農産物が安いとて悲感しなくてもよいことになる、であるから平素に於て農業經營上の研究をすることが肝要であります、即ち農家として生活上最も苦しきことは日用品の購買であらう、日用品の購買を最も圓滑にするのが不斷の収入である

ると云ふことに歸着する、けれども農家の作業の内には不斷の収入を計る可き途が極めて尠ひ、米や麥は一年一回の収入であり、養蠶は春秋に跨つて収入を得、蔬菜は一局部の地方に限らる可き性質であり、養畜の収入は間歇的であると云ふ様に、間斷なく収入を得る可き道がない、然るに養鶏は獨り都鄙を論せず、貧富を問はず、土地の廣狹に論なく經營し得られて、然も其の生産物は國民保健の最大滋養品たる鶏卵、鶏肉であるから、更に一層我々が任務を盡す上の必需品であります、而して更に此の鶏卵は間斷なく生産し得るのであるから、農家として最も不如意である、日用品の購買を補け、尙且つ其の作業は老人婦女子の勞力を利用し得る點に於て、最も有利に經營せしむることが出来るのであります、而已ならず、家禽は農家として最も必需品たる鶏糞肥料を副産物として多量に生産し、然も其の肥料は三要素の配合が極めて理想的に含まれて居り、農家に最も大切な

自給肥料の一であるから、土地の性質を改善する點は金肥の到底及ばざることである、殊に最近金肥の亂用より生ずる土地の惡變を改善するには最も都合の好き好肥料と曰はなくてはなりません。

斯くの如く家禽の生産は獨り鶏卵鶏肉に止まらず間斷なき鶏糞の生産は金肥の節約となり、金肥は又家禽飼料に利用せらる可き種類のもが其の大部を占むるが爲めに、飼料節約の爲めにも金肥を利用し得可き性質を有するが故に、家禽の飼養は農家と最も密接の關係を有するのであります、此の密接なる關係を有する養鶏業が未だ一般的に行はれて居らぬと云ふことは、種々なる事情もあらうが、あなたがた御自身が農業經營の骨子を辨へないからであります、若しも私し共が農家であり農業經營主であつたなら、自分の耕作する田畑に施す可き肥料を得るが爲めに養鶏して其の鶏糞を金肥代用とするのであります、而して此の養鶏より

生せし鶏卵の収入は國民の第一義務たる納税を果し、併せて日用品の購買と相俟つて子孫の教育費を支辨し、田畑の収入は以て財政の基礎たる根本政策に供して一家の安定を圖るのであります、然れども多くの農家は無意味に耕作し、無意味に收穫し、無意味に其の日を送つて居るのではあるまいか、と疑はるゝ程農業組織が不完全ではありませんか、養蠶の景氣がよければ水田までも桑園とし、米の値段がよければ山林を開拓して水田とするが如き、無方針ではいけません、世間では斯んな無方針の經營をするから、劃策なき農家、無秩序の農家などと罵らるゝのであります、諒解致しましたか、諒解致しましたとすれば、あなたは何羽の鶏を御飼ひになりますか。

二、採卵養鶏を始めて行ふ人に

愈々鶏を飼ふことに決心されたら、無意味な養鶏をやつて貰つては困る、少くとも養鶏の収入で日用品が購ひ得る程度に飼ふて貰はねばならぬ、慾を云へばあなたの御作りになつて居る田畑に施すことの出来る丈けの自給肥料を得る程度迄飼ふて貰ひたい、けれども資本と努力には制限がありますからそううまくはゆかぬ、朝夕の暇を利用して飼ふことの出来る範囲内で經營することに致しませう、すれば四、五十羽の鶏を飼ふことに極めませう、此の位の鶏なら毎日二、三十顆の卵は産んで呉れます、二、三貫匁の生糞も收穫されます、掃除や手入にも二、三十分間で出来ます、すれば一日の總収入は壹圓五拾錢内外でありませう、仲々馬鹿にならんものです、世の中の人は一時的の収入には目を付けますが、普遍的の小なる収入には注意するものがない、假りに毎日壹圓五拾錢宛の収入があつたとしますれば一ヶ月で四拾五圓となります、一ヶ年では五百四拾圓ではありませ

んか、五百四拾圓で御米を買ふたら何俵買へますか、桑を買ふたら何十貫ありますか、土地を買ふたら幾坪買へますか、斯ふ考へて見たら仲々侮られないものでせう、まあ兎に角四、五十羽の鶏を飼ふことに致しませう。

あなたは恁麼鶏が御好きでありますか、白い鶏が御好きですか、黒い鶏が御好きですか、又名古屋などの專業家が御飼ひになつて居る黄ない鶏が御好きでありますか、さあ色を御好みになつた處で収入を多く得ると云ふ點には少しも關係はありませんでせう、何んでも見事豫定通りの成功をさして呉れる鶏でなくてはなりませんと思ふ、斯ふ煮じ詰めて來ると、丈夫であつて、良く卵を産む鶏でなくてはなりません、飼ひ易い鶏でなくてはなりません、粗食に堪へる鶏でなくてはなりません、斯う論じて見ると矢張り愛知に澤山飼はれて居る名古屋種や三河種が理想に近い鶏と曰はねばならんこととなります。

而して此の鶏をどうして飼ひ初めるかと云ふに、既に愛知は先輩が幾多の辛酸を嘗めて研究された方法が、目前に實行されて居るから、其の眞似をする、獨創的もよいけれども、夫れでは仲々容易でない、夫れよりは良い成績を擧げて居らるゝ方法を眞似た方が成功が早いからであります、何も天狗にならなくてもよい、豫定通り組織的の養鶏が出来ればよいのだ、斯う考へて見ると縣には農事試験場があつて計劃上の相談もし、實地指導もして呉れる、郡にも夫れも指導者があつて、購入や販賣の斡旋をもして呉れる、經營するには少しも困難のことはない、一日も早く實現さへして呉ればよいのだ。

さあ一つ養鶏を副業として始めませう、雛を購うか、親を買うか、併しあなたが養鶏に何圓の資本を掛けて下さる見込でありますか、又何圓融通してもよいでせうか、資本としては鶏舎を建築する費用と鶏を拵へる處の資金とがなくては遣

れません、ざつと一羽に付て四、五圓の資金が入るでせう、鶏が一羽貳圓五拾錢と見積り鶏舎一坪の建築費が貳拾圓、其の一坪の面積には十羽の鶏を收容するこゝが出来ます、すれば建物の資本が一羽に付貳圓懸ります、だから四、五圓はかゝるでせう、四、五十羽の鶏を飼ふ場合は貳百圓位の資金が必要であることになるが、之れは始めから新しく鶏舎を建築し鶏を一時に買入れんとした場合の計算である、鶏舎は納屋や堆肥小屋でも利用し、鶏は全部自分が養成したとすれば、其の餌は自家で生産したものを利用することも出来るし、又金肥として買入れた、鰯や大豆粕も、米糠も種子粕も利用が出来る、大根や芋も利用が出来る、葉菜は申すに及ばず雑草などの若芽は之又唯一の鶏の餌であるから、利用の出来る餌は幾らでもある、であるから一羽の鶏を雛より養成すると貳圓も貳圓五拾錢もと云ふ大さうな御金子はいらん、雛代も無くてよい、雑穀が入用位のものである、そ

うすれば四、五十羽の鶏を飼ふには僅か百圓以内の資本で樂に出来るのであります。

三、鶏の好む食物と其の反應

鶏舎も出来、鶏も出来ましたが、鶏は一日も食物を與へないで置く譯には行きません、我々も一日に三回も四回も喰ふ、鶏も甘い食物を成る可く澤山喰ひたいと云ふ心理は人間と少しも變りはありません、すれば一日に三回御喰べになる方は鶏にも三回與へて貰はなくはならん、四回御喰りになる方は矢張り鶏にも四回與へてやつて下さい、斯様に寢食を共にしてやつたら少しも小言は云ふまい、彼れは喰ふことさへ満足して居れば決して人間に對し仇はして呉れない、若しもあなたが食物を吝んで與へたとして御覽なさい、屹度其の時は産卵が少くなるに

違いありません、卵の産みが減つて來ると、収入が少くなる、糞も少くなる、鶏は維持飼料と云ふて自分の體の生命を維持して行く丈けでも既に粕類一合位を喰はなくてはならないことになつて居る、自分の體を支へて更に一個の卵を産ませやうとしたならば、どうしても澤山の餌を與へなくてはならない道理になる、であるから澤山の卵を産む鶏は澤山の餌を喰ふ、産まない鶏は餌を喰はない、即ち其の差額丈の餌は卵となる餌であると見てよいのであります。

そこで普通の産卵鶏は一日に何合喰ふかと云へば、米糠、麥糠、穀の様なものや與へると三合二、三勺、麥糠、大麥糍、大豆粕などを與へると二合位、大麥、小麥、小米などを與へると一合五勺位あればよい、けれども只満腹すれば卵を産むものであると思ふことは間違ひであります、なせならば卵になる成分の多い食物と、少い食物とがあり、又肥る食物と瘠る食物とがあるから、澤山喰はせても少

しも卵を産まない時もある、そうかと思ふと餘り澤山の餌は喰はないが、五分も六分も産卵する時がある、之れは與へた處の餌に含んで居る養分が夫れ／＼特徴があつて、肉付を良くする性質の餌や、卵を産まするに必要な要素を含んで居る餌とがありますから、自然其の反應が違ふのであります、今平たく其の解説をして見ると、大豆粕や、豚肉の様なものは肉を肥すに必要な要素を澤山含有して居りますが、産卵を促す養分は極めて少いのであります、けれども大豆粕に青菜を混合して與へると、今度は非常に克く卵を産む様になる、之れは青菜の中に大豆粕を消化体にする要素があつて、大豆粕の消化を補け、併せて青菜と大豆粕とが一所になつた爲めに、營養の過不足が幾分補はれることになつたからであります、けれども大豆粕を與へた時に絶対に青菜を與へないことにすると、二、三ヶ月の後には必ず中毒して肛門より白い液を漏出する、此の白い液は蛋白質が吸収され

ないで排泄せらるゝのであります。

而して鶏に是非與へなくてはならぬものは産卵を促す處の要素であります、此の要素は植物性の穀類には乏しくて動物質に多いことになつて居る、動物質の餌でも獸肉に乏しくて魚類に多いと云ふことになつて居ります、而して魚類の内でも其の種類に依つて多少相違はありますが、何れも相當に含有されて居るから、採卵を目的とする場合は是非共適當量を與へなくてはなりません、尤も魚類の内にも干したものと生のものとがあります、干したものは概して効力が薄く、生のものは効力が多いのでありますから出來得る限り生のものを與へて頂きたい、止むを得ない時は干物で間に合せて貰ふことにする、肥料用として居る干物の内には種類が澤山ありますが、臭氣の深いものや、塩分のあるもの、不良品が混合して居るものなどは絶対に使用してはなりません。

農家とすれば何れも相當の肥料を使つて居る、又肥料として鯀や鯀粕をも使つて居ります、以上の缺點のない魚粕であれば使用しても差支はありません、餘り多量に與ふると、其の鶏が黄い糞や白い糞を排泄する様になります、之れは魚粕の中毒を受けたものであります、故に干魚なら一羽に付二匁乃至三匁與へて居ればよい、前に述べた通り青菜は大豆粕を與へた時に混合給與すると非常に効果がある通り、干魚を與へた時にも効力があります、であるから青菜は食物の消化劑として是非共與へなくてはなりません。

元來青菜は、鶏に對してどう云ふ働きを以て居るかと云ふに、第一、食物の消化を補くる酵素を多量に含有して居るから、消化の不良な食物と一所に配合して與へると極めて消化がよくなる、第二、血液の循環を盛んにするのでありますから血行に關する病氣は勿論、内臓の働きを強めて食物より來る病氣に侵されない

素質を維持させることが出來ます、第三、中毒性の食物を緩和させることが出來ます、第四、脂肪夥多症を緩和して鶏を中肉に維持させます、第五、通痢を調へ食欲を増進させることが出來ます、と云ふ譯で鶏に對しては唯一の強壯劑であり長命劑であるのであります、而して其の生産物の卵肉に對しては獨特の風味を持たせ、卵黄及び脂肪の固有の色澤を維持せしむる唯一の着色劑であるから、鶏が生存上に就ても、彼を利用する點に於ても、必要缺く可からざる飼料である。

而して鶏が生存上缺くことの出來ない食物は骨や卵殻を作る處の餌である、之れは土の中には澤山あるから、放飼にして置けば強て與へる必要がない、けれども鶏は柵内で飼はなくてはならぬ様になつて來たから、強いて之れ等の物を餌として與へなくてはならぬ様になりました、餌として與ふる場合は効力の薄いものでは不利益である、どうしても即効のものを與へなくてはならん、そこで先輩が骨

や卵殻を作るに最も即効である、動物の骨と貝殻を利用する様になりました、魚類などを平常多量に與へて居る方は殊更に骨粉を與へる必要はないけれども、牛肉粉や蠶蛹を御使用の場合は骨粉を與へなくてはならん、之れは其の食物中に骨粉成分が無いからであります、又田螺などを平素與へて居る方は之又貝殻を與ふる必要はありません、田螺の殻は卵殻を生成する成分があるからであります、骨粉は鶏の成長する時と卵を産みつゝある時に特に嗜好する食物である、貝殻は産卵の期節に於て最も嗜好する餌であります。

而して土や石片と云ふものは骨粉や貝殻を與へて居れば必要がないものであるかと云ふに、決してそうではない、土や石片は食物の消化を補助し、筋肉の成生を調節する處の強壯劑である、故に胃腸病に罹かつた鶏は自然的に之れを好み、産卵不可能症となつた鶏は既に生産力を失つた鶏であるから土や石片を好まぬ、

土や石片を好む鶏は體の新陳代謝の甚だしい鶏であるから能く産卵するけれども之れを好まない鶏は營養不良症か若しくは脂肪肥滿症である、之れ等は何れも兩極端の鶏であるのであります。

次ぎが飲水である、飲水は新鮮なものを常に與ふことにしなくては産卵が少くなる、又飲水は産卵の多いもの程能く飲み、産卵の少いものは之れを好まない、青菜や貝殻とよく其の嗜好を伴にするのであります、不良な飲水は健康を害するのみでなく産卵を阻害するものである。

そこで最後に申上げたいことは強壯劑である、之れ迄多く唱導されて居つたものは硫酸鐵であるが、此の藥品は産卵を阻害する性質を有して居るから與へるものでないと思ふ、夫れよりも農家は蕃椒を栽培して置いて、隔日位に一羽に對し一本位の割合で飼料中に混合して與ふれば食慾増進、産卵促進の効がある、冬期に

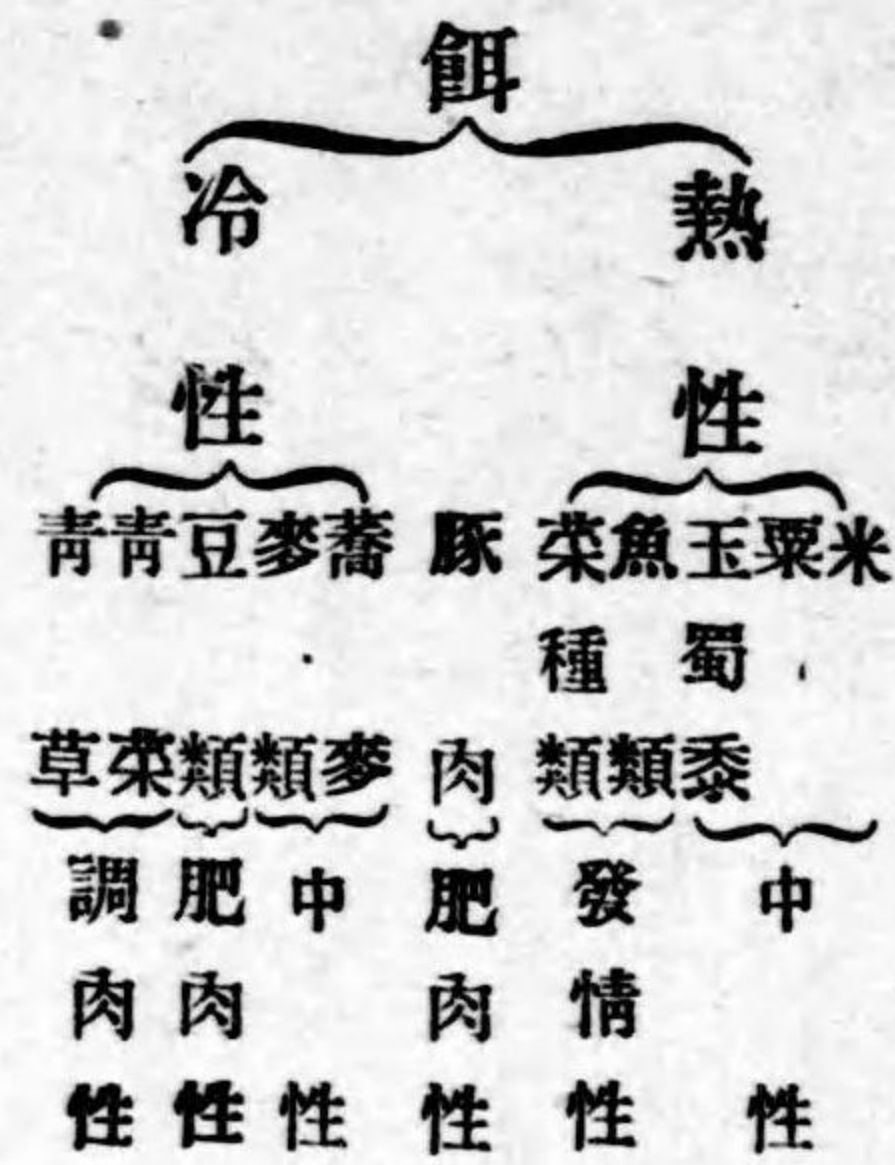
與ふれば體温の維持に力があり、夏期に與ふれば餌の腐敗を防ぐので一舉兩得の強壯劑であります。

四、飼料配合の要件と配合例

今申上げた通り鶏が生存して行く上に於て必要な食物は仲々多い、けれども之れを細別して説明すると一層複雑になつて来るから、今度は最も簡單に且つ判り易く説明して見たい、營養分がどうのこうのと云ふて論じて見た處で、あなた方が毎日目方を釣つて算盤を弾いて、其の過不足のない様に與へると云ふことも仲々六ヶ敷い、同じ體量を持つて居る鶏でも大食のものもあれば少食のものもある、産卵中のものは大食するけれども、休産中のものは少食である、運動の繁しいものは大食であるが温順なものは少食である、又一群中には内臓病に侵されて居る

ものもあれば、巢念を催しつゝあるものもあると云ふ様に、雑多な鶏が收容されて居るのであるから、之れに一定した餌を與へると云ふことは仲々六ヶ敷い、事實云ふ可くして行はれないのであります、であるから大体に於てどの鶏に對しても生理上大なる缺點のない様に配合して與ふると云ふことが最も肝要ではあるまいかと思ふ、そこで私は一年を四季に別ちて其の期節に適した飼を與へなくてはならんことを主張した、平たく申上げて見ると、冬は體の温くなる食物を與へ、夏は涼くなる食物を與へ、秋は換羽の時であるから換羽が樂に出来る食物を與ふると云ふ風に、其の期節々に依つて適した食物を與ふるとすれば、鶏は比較的苦痛なしに生活が出来るのでありませう、而して尙一つの問題は鶏を飼ふて澤山の卵を産ませなくてはならんから、只温いとか涼しくすると云ふ問題にのみ拘泥して居つてはいかん、其の半面に於て何時の期節でも良く産卵する様に餌の配合

をしなくてはならん、故に更に産卵を促す處の食物と、促がさない處の食物とを
 区分したならば好都合であると思ふた、餘り多量の卵を産ませると體が瘠せる、
 體が瘠せれば産卵を中止して來る、夫れでは困るから産卵しても體の瘠せない食
 物をも加味してやらなくてはなりません、體も瘠せず、冬は温かに、夏は涼しく、
 羽根換の時に弱らないで産卵する様に飼へば、これこそ鶏を飼ふて損する様な
 ことはない、瘠さして仕舞ふたり、太らして仕舞ふたり、するから産卵が不調に
 なつて利益のあるときと、無いときとが別れて來るのであります、即ち此處が骨
 子となつて割り出された餌の配合でなくては經濟が持てないのであります。
 今其の別け方を示して見ると次の様であります。



以上熱性と云ふ餌は體温を保持するに必要な食物で、其の餌で出來た筋肉や脂
 肪は體量を保つて居ることが強いのであります、冷性と云ふ餌は之れに反して體
 温を維持する働きが鈍いので、其の食物に依つて出來た脂肪も筋肉も其の熱を保
 有する働かない、之れを判り易く述べて見ると、熱性の食物で造つた酒(日本酒)
 は之れを飲むと忽ちにして酔うて來て體が熱くなる、冷性で造つた酒(ビール)は

之れを飲むも日本酒の如く酔はない従つて體温が出て來ない、斯様に冷熱の反應は肉體に及ぼす關係が甚だしい、又熱性の食物は元氣が出るけれども、冷性の食物は元氣が出ない、熱性の食物を多量に與へると血色が鮮かになるが、冷性の食物を與へると血色に乏しくなる、熱性の食物は其の便を硬化するけれども、冷性の食物は軟くする、又熱性の食物は主として皮膚筋肉を硬化するけれども、冷性の食物は軟化すると云ふ様に殆ど其の性質が反對であります、であるから之れを正反對に使ふと、産卵す可き期節であつても産卵しないことになるのであります。而して更に其の性質を分類して見ると産卵を促す處の餌があり、之れを抑制する處の餌がある、肉類は總て産卵を促す飼料である様に思ふて居たが、獸肉は魚類に比して其の効力が薄い、殊に豚肉の如きは全く其の効力がないと云ふても差支ない、植物性の餌で最も産卵を促すものは菜種子であるが、菜種は刺戟性を有

して居るのであるから長く繼續することはよくない、元來刺戟性の産卵促進法は一時的のものであつて永久的のものではない、故に之れを永く繼續する場合は習慣的となつて其の効力がなくなる、種卵を採收する場合は多量の菜種を與ふると其の雛が弱くなるから採卵養鶏の場合に一時的産卵を促すに効力があります。

植物性で最も産卵を抑制する食物は大豆や大豆粕である、此の餌には肉や卵となる唯一の蛋白質成分が多量に含まれて居る、蛋白質さへ多量に含有して居れば産卵をよくするなご、思ふのは素人である、元來動物質の蛋白質と植物質の蛋白質とは消化の程度が違ふ、殊に植物質の蛋白質中最も消化の困難な蛋白質は大豆に含まれて居る蛋白質である、故に大豆や大豆粕を普通の餌に混合して與へても産卵促進には少しも効力がない、却て肥育するに効力があるから、肥肉餌として推奨して居るのであります、而して其の蛋白質は絶對的に卵に變化しないもので

あるかと云ふに、夫れは其の蛋白質の消化を補くるものと混合すれば極めて有効な反應を現すのである、殊に青菜を混合した場合とか、魚屑の少量を加與した場合とかは格別成績がよいのである。

そこで中性餌と云ふのは發情(産卵)に於ても肥育に於ても目立つ様な効がない只其の鶏の健康を保持する上に於ては一日も缺くことが出来ない、其の代り多量に與へても中毒しないので少しも危険がないから、此の中性餌を主餌として調理するのである、而して此の中性餌は冬期と夏期とに於て斟酌を要することは、前にも述べた通り、夏期は冷性餌を七分、冬期は熱性餌を七分の割合を以て混合調理するのであります。

右の如く其の配合の調節は鶏の産卵状態と、肥瘠の程度とに依つて斟酌するは勿論であるが、尙念頭に置かねばならぬことは、各飼料は恁麼營養分を恁麼比例

に見る。に含有して居るか云ふことも豫め研究する必要がある、故に参考として掲げて

種別	蛋白質	炭水化物	脂
小麦	二、七	六四、三	一、二
大麦	八、〇	五八、九	一、七
粟	七、六	六一、八	四、三
稗	七、七	七三、五	一、九
大豆	五、五	六五、五	三、〇
豆	七、六	五六、〇	三、三
豆	三〇、一	二五、一	一五、八
糠	一一、八	四四、四	三、〇
糠	四、五	三八、八	二、七
糠	一一、五	四三、二	六、六

一升でも麥糠の荒糠は百匁内外であるが、仕上げ麥糠は百八十匁もある、米糠の普通品は百五十匁であるが、砂混物は二百二十匁もある、麥は二百八、九十匁あるが、米は三百七、八十匁ある、故に目方のあるものと無いものと同一に心得てはなりません。

而して大体に於て蛋白質と炭水化物と脂肪の比例が三、九、二、位の比例を保つ様に拵へて與へればよい、此の比例は混ぜ物の無い粕類や穀類の目方を標準として割り出さなくてはならん、而して配合する上に於て最も心得ねばならぬことは、鶏の嗜好である、嗜好するものは多少營養分が乏しくても其の効果がある、嗜好せざるものは如何に營養が豊富であつても効果がないことは、我々の食物に於けると等しいのであります、故に嗜好を斟酌して配合率を極めることが必要であります、今以上の配合法に基いて調理して見ると左の様である。

以上の表は百匁に對して何匁の營養があるかと云ふ量を示したのである、同じ

米	一〇、一	四五、八	一二、七
芽才	一五、六	二九、二	一六、三
豆腐	二、七	七、一	一、二
種粕	二五、三	二三、八	七、七
大豆	三六、三	二九、四	六、八
馬鈴薯	一、四	二一、八	〇、六
甘藷	〇、八	一九、一	〇、一
大根	〇、四	三、五	〇
干鰯	粗 六八、四		一三、九
干鰯	一八、四		二、七
蠶蛹	一二、六		五、九
田螺	八、一		二、〇
練粕	六〇、九		九、八

種別	第一例	第二例	第三例	第四例
米糠	一升八合	二升	二升二合	一升
裸麥糠				一升二合
大豆粕	四合			
干蠶蛹				四十匁
魚粕				
青草及雜草	三百匁	三百匁	若千	二百匁
貝殼	若千	若千	若千	若千

期節を參酌して配合したのであります、多少粗末の嫌はあるが、恁麼鶏でも一ケ年三分五厘位の産卵はあります。

餘り多くの種類を混合する事は仲々容易でない、故に最も簡易で且つ生理的大なる障害を及ぼさない範圍で餌の配合をなして見ると次ぎの様である。

一日十羽の配合例

種別	春	夏	秋	冬
米糠	一升二合	八合	八合	一升
麥糠	一升			
粗糶				
大豆粕	一合五勺	五勺	一合	五勺
大麥粕				
大魚粕				
魚種				
菜種				
雜草	二百匁	二百五十匁	二百五十匁	二百五十匁
貝殼	五勺	三勺	三勺	五勺

以上の配合は冷性、熱性の兩性質を應用し更に發情性と肥育性餌とを都合よく

金肥を利用せんが爲めに大豆粕、魚粕を出来るだけ多量に用いた四季の配合例

名古屋種及雜種に對する一日十羽の飼料配合

採卵餘鷄

以上は極めて簡単である代りに鷄が荒びるかも知れない、然し産卵の方は前者に劣らないのであります、而して種禽に與ふ可き餌を紹介して見ると。

一日十羽の配合例

種別	第一例	第二例	第三例	第四例
米	二割	二割	三割	二割
粗糲	三割	二割	一割	一割
大麥の芽出	一割	三割	一割	三割
大麥仕上糠	二割	二割	一割	二割
餵粕	三割	一割	五割	二割
小麥	一割	一割	二割	二割
小麥	一割	一割	一割	一割
魚屑	一羽に付 三匁	一羽に付 三匁	一羽に付 十匁	一羽に付 十匁

採卵養鷄

以上各配合は何れも升目を以て配合せられたい、青菜は適宜之れを細切して飼料中に配合してもよい、或は單に之れを撒布して與へてもよい、貝殻は器物に入れて舎の一隅に供へ不斷に給與して置くのがよい、大麥の芽出は、餵を製造するに必要な原料である、之れを購入することは經濟が持てない、普通の大麥を購入するなり、自家にて生産した大麥を利用する、此の場合は大麥を水に約十二時間位浸漬して置く、而して良く水洗して之れを敲きの上に三、四寸の厚さに廣げる、其の上に莖三、四枚を重ねて覆ふて置く、翌朝更に之れを水洗して良く水を切り前の様に廣げて莖を覆ふて置く、斯くすること凡そ三、四回で大麥は發芽して來る、發芽して來ると一日二回水洗しては水を切つてねかして置く、すると一週間

青 草 若 干 若 干 若 干 若 干
 貝 殼 若 干 若 干 若 干 若 干

で根が一寸位出て来る、斯うなれば其の儘餌に配合して與へてもよい、又之れを一旦乾燥して餌に混合してもよい、雛に與ふる時は乾燥したものを石臼にて碎いて配合する、之れは食物の消化を補け産卵を促す處の好餌である。

干魚は之れを細切し煮沸して用ゆるのが安全である、粕、大豆粕は新鮮なものなれば粉碎して其の儘與ふればよい、臭氣のあるもの又は黴の生へて居るものは一旦煮沸して與へた方が安全である、雜草は何んでもよいが毒草として嫌忌して居るものは與へない方がよい、甘藷や馬鈴薯も與へてもよい、此の場合は餌の三分の一(量)以内に止めて置く方がよい、大根なども食欲増進上有効な根菜であるが、餘りに多量に與へると軟い卵を夜中産卵する様になる、故に少量宛與ふることにして貰ひたい。

五、營養の過不足と病鶏は糞色に依つて

見別けが出来る

營養の過不足は營養分の比例と給與量とに依つて知ることが出来るが、之れは數字的の話であつて經濟的の理論でない、故に經濟的から之れを論及して見ると、與へた處の營養分が全部肉となり、卵となつてこそ經濟が持てるので、與へた處の營養分が其の一部は肉となり卵となつても、他の一部が其の儘糞と共に排泄せらるゝのであつては不經濟と曰はねばなりません、けれども前述した通り鶏には大小があり、嗜好があり、産卵中のもの、休産中のものがあつて其の食欲は極めて不同である、此の異なる鶏に一定の營養分を與ふると云ふのであるから、最も

其の配合が六ヶ敷くなるのである、だから一定の營養量丈け與へて居つては理想通りの産卵をして呉れない、何んでも鶏を飼ふ人は、其の鶏をして自分の掌中の鶏にして仕舞ふと云ふことが肝心なことになつて居る、即ち今月は少し澤山の卵を産まして見ようと思ふたら、其の通りに産卵をさせ、少し控へ目に産ましたいと思ふたら其の通りに産卵を控へて来る、と云ふ様に自由に其の産卵を左右する丈けの技術がなくてはなりません、其の技術を磨くのは常に鶏の動作に注意して容體の善惡を鑑定することも必要であるが、産卵中の鶏と、休産中の鶏とは恁麼風をして居るか云ふことも鑑定する必要がある、又恁麼食物を與へた時は恁麼糞を排泄するかと云ふことも研究する必要がある、糞は食物の反應を知るには至極便利なもので、且つ其の鶏の内臓の良否をも鑑定が出来る唯一の標的であるから一層其の必要があるのであります。

今其の食物の反應より之れを述べて見ると、糞の上面に塗り付けた様な白[○]白[○]の様な糞を御覽でせう、あれは腸より出た糞ではない、腎臓より排泄せられた尿の固形物であります、此の固形物は過剰の蛋白質の多い場合には一層澤山に排泄せられて、少い場合は又少くなるから其の多少に依つて蛋白質の多少をも鑑定することが出来るのであります、夫れで内臓に故障があつた場合は必ず血液が清浄されない、清浄されない場合は必ず其の尿が純粹でないから着色されて來るのであります、故に其の排泄の量は蛋白質の過不足を意味し、其の色澤は其の鶏の健康を意味するものであると鑑定してよいのである、即ち其の色の白色なるは健康を意味し、其の尿の多きは過剰を意味し少きは營養の不良なるを意味するものであります、而して其の色が黄味を帶んで來るのは既に内臓に故障のあることを意味し、其の状態が粘汁となつて單獨に排泄せらるゝのは既に蛋白質過剰の爲め

中毒を意味したのである、中毒しない範圍に於て蛋白質物を與ふれば營養分の過不足はないから、常に其の状態を鑑察して斟酌することが肝要であります。

次ぎに注目す可きは褐色の粘糞である、之れは臭氣が仲々深くて少しでも指などへ付くと逆も堪へられない、其の糞は至つて緻密で味噌を粘り付けた様な形をして排泄される、之れは直腸に充滿して居る糞が排泄せられると其の次ぎに必ず續いて排泄せらるゝものであります、朝鷄を外出されると必ず出る糞で盲腸から絞り出された糞であるから力を入れて排泄するのであります、之れは炭水化物の反應であつて、米糠や麥糠などを澤山與へると澤山排泄せらるゝのであります、玄米でも大麥、小麥でも排泄せらるゝのであります、其の色は白色の糞の如く變化はないが、多少濃厚になることはあります、例へば大麥や米糠を主として與へて居ると黄味を帯んだ褐色であるが、小麥や鰾粕などを澤山に與へると濃褐色に

なります、けれどもそれは多量に出る程其の鶏が健康であつて、出なくなると衰弱して來るのでありますから可成多く出る様に餌の配合をするのであります、即ち此の量の多少は炭水化物の多少を意味する反應と見て差支ないのであります。

青い糞や赤い糞を排泄する場合があります、之れは内臓殊に消化器の故障より來る反應であります、胃腸に故障のある場合は消化不良を來して穀類が其の儘出る、腸に故障ある場合は下痢する、ジフテリアや頭瘡に罹ると體に熱が出る、發熱した場合は尿が黄くなり、糞が青色となる、又赤色肉塊様の便をすることもあり、血液様の便をなすこともある、之れはコクシジウムと云ふ原生蟲の寄生であること云ふて居るが、主として發熱した場合に此の徵候を現すものであります、何にしても胃腸に故障を生じたり、細菌的の病氣に侵されて消化機關が活動を停止すると糞色が青となつたり、黄となつたり、赤となる、此の様な糞は決して硬い糞

でない、何れも軟い粘糞であるから、誰でも鑑定が出来るのであります、其他黒色の糞もあるが、黒色の糞は運動を充分させた場合に水分の吸収と消化器の活動とに依つて緻密な糞となる場合に黒色を呈するのである、木炭などを拾食した場合も黒い糞となる、此れは病氣でもなんでも無いが、棲木の下に水様便で其の中の糞は不消化で且つ稍黒色を呈する便を往々発見する、斯様な便は健康の糞ではない、大低腸の病氣に侵されて居るものである、元來鶏は夜中に於ては硬い便をするのが普通であるのに、水様便をすると云ふのは假令其色が黒くなくとも病鶏であると鑑定してよいのである。

六、一日の日課

そこで毎日の餌はどうして與へるか、申す迄もなく桶などで配合して餌鉢の中

へ入れてやるのであると云へば夫れ迄であるが、夫れが仲々練習を積まない鶏が氣に入る様にやる事が出来ない、鶏が氣に入ると云ふよりも寧ろ鶏が主人の氣に入る様に働くことが出来ないと云ふ方がよいでせう、兎に角餌を配合したり與へることは女や小供に委せて置いては駄目です、如何に少數の鶏でも主人自ら鶏を飼ふと云ふ信念がなくては駄目です、何に五羽や十羽の鶏を飼ふに、主人が手を出すなど、云ふことは恥かしいなど、云ふのが間違ひだ、そんなことを云ふ主人に限つて一番先きに卵を食ひ肉も食ふ、卵も肉も先きに喰ひたいと思ふたら、自ら餌もやり糞も掻くべしだ、斯ふ考へて見ると少しも恥しくない、一羽一ケ年の總収入拾圓は確かにある、十羽飼へば百圓ではないが、月割にして見れば八圓である、八圓の金子は實に僅かであるが、それは餘分の収入であるから實に難有い、斯ふ説明すると餌も遣り、糞も掻かねばなるまい。

餌を遣るのは前にも述べた通り我々の食事前と云ふことにするのがよい、糞を掻くのも食事前でなくてはならない、人間は食事を済ますと弛くなる、だから起床して朝の務めを終つたなら、直ぐと餌の用意をする、餌は年中水で掻ひてよいが、寒中丈は温湯で掻いてやるのがよい、練り方は硬くなし軟くないと云ふ程度でよいが其の程度が熟練を要するのであります、餌の用意が出来ると各室の飲水を取換へてから餌を持つて鶏舎に行く、開戸する、此の際注意せねばならぬことは鶏の動作である、主人が開戸するのを待ち兼ねて出る様な鶏は少しも異状はない、寧ろ其の日に必ず産卵すると云ふ頼しい鶏である、元氣のよい鶏が既に棲木を去つて運動場へ駆け出て居るに、まだ悠々として棲木に残つて居るものは腹の減らないものである、腹の減らないものは産卵して居らないものであることは當然でありませう、斯う云ふ鶏は直ちに捕へて検査する、先づ第一に検査する所は

腹部である、腹部が鼓張して居るものは脂肪夥多症であるか或は内臓に故障のあるものである、脂肪夥多症のものは、肛門より一寸計り下がった所より其の層が皮膚に五分も六分も付いて居るので其の局部を摘んで見ると、股の肉よりも堅い、何か此所に固まつて居るではないかと疑はるゝ位であります、又臍の下の脂肪も皮膚を持ち上げて居り、腰の皮膚にも大分脂肪が出来て居るので體は大體に於て丸くなつて居るのであります、又斯うなつた鶏は既に食慾が减退して居るから嚙嚙は小さく常に食物が溜つて居らぬから素人でも少しく經驗が出来れば鑑定が出来るのであります、之れに反して相當に脂肪が付いて居るけれども、脂肪肥満の爲めに元氣を傷めたのではなく、内臓に故障が出来たので食慾と氣力が减退した鶏がある、之れは脂肪鶏の如く腹部が鼓張して居るけれども、脂肪層が比較的少い、横腹の如きは非常に膨大して居るけれども脂肪が少い、腹部を母指と人指

し指で壓して見ると、何となく手觸りが脂肪とは違ふ、中には腹部に胃の様な固りがある、固りが無い時であつても何となく護謨玉の中に水を入れた様な撮み加減がするものがある、而して此の様な鶏は水を盛んに飲むのであります。之れ等は卵巢や輸卵管に故障の出来たものと腹腔に水が溜つて来た俗に云ふ腸満と云ふ病氣である。

卵巢や輸卵管の故障で出来る病氣で最も多いのは卵秘と玉潰れである、卵秘の方は肛門の内部腹腔の後部に胃の如き固りがあつて此の固りが日を経ると共に大きくなる、遂には鶯の卵程にも大きくなるから腹部は益々鼓張して来るのであります、玉潰れと云ふのは黄巢で成熟した黄味が喇叭管に落ちる前後に於て急に驚かしたり、取扱が亂暴であつたりすると此の黄味が腹腔の中に落ちて腸と腸との間に挟り込んで、病根を醸すに至るのであります、斯ふ云ふ場合は其局部を中心と

して腸の動きが弱つて来るので食欲が進まなくなるのである、總て斯ふ云ふ鶏は見込がないから廢鶏として仕舞はなくてはならん、而して棲木の下に排泄されて居る糞を檢べる、健康な糞は硬い、産卵中の鶏の糞は大きく、休産卵のものは細く小さい、病鶏の排泄した糞は必ず青味を帯んだり、黄味を帯んだりしてゐる、而して其の糞は必ず軟いのであるから、斯様な悪い糞がいくつあるかを検査する、二固りあれば二羽の病鶏が居り、三固りあれば、三羽居るのである、三羽居ると云ふ事が判れば餌を與へる前でも後でもよい、其の日の内に其の鶏を搜して處分する、處分に際しては見込があるかないかを鑑定する、大抵内臓の病氣に侵かされたものは治療の見込がないから元氣に變りがなくとも肉の落ちない内に肉用として賣却した方がよいのであります。

而して餌を遣る、此の際、餌に飛び付くものもあれば悠々として餌を喰ひに來

るものもある、餌に飛び付くのは産卵中のもので、遅いのは休産中のものである、而して全部の餌を與へて仕舞ふと其の餌が次の餌を與ふる迄に喰ひ盡して餌鉢はカラとなる程度がよいのであります、朝の給餌が終つたなら直ぐと糞の掃除をする、糞の掃除をする場合に各室の残餌を調査する、澤山の残餌がある部屋のもものは、空になつた部屋の餌鉢を替へてやる、既に全部が喰ひ盡して居れば、次回の給餌を早やめて少しく多量にやる、多過ぎれば少しく控目にする、斯ふして此の調節をすることは一時たりとも忘れてはならないのであります、而して其の時に同時に注意することは、鶏が極めて喰ひ易い様に、器物の配列をするのであります、飲水の飲み方をも注意をする、不良の食物や發病鶏はどうしても飲水を貪るのであるから、飲水を澤山消費する場合は食物中に不良品があるが爲めである、又夫れども鶏が不時に異状を來したのであります、其の原因は成る丈け急速に調

査して原因を取り除かねばならん、而して鶏舎には蜘蛛の巢がよく張る、天井より澤山塵埃の付いた蜘蛛の巢が吊り下つて居る、如何にも氣持がよくないから、掃の先きで取つて遣る、産卵箱の内は鶏が出入する所で又不潔になり易いのでから重ねて注意をするのであります。

而して集めた鶏糞は堆肥小屋に入れる、成る可くはよく乾いた土も約半分位混合して堆んで置くことよい、そうすれば醗酵するも餘り高い温度が出來ないのみか、發散しようとした「アンモニア」は全部土に吸ひ取られて肥料養分を失ふことが少くなる、又之れを干し上げんとする場合は莖上に廣げて乾燥する、乾燥したものは俵に入れて貯藏するのであります、糞に土と混合した鶏糞は之れを三四日毎に一回宛位攪拌する、すると全く醗酵して其の儘畑に施してもよい様になる、此の際甘味を持たする作物に施す場合は必ず石灰を少量混合して施すと作物の種實が

甘味を有して来る、左なくばその種實は水分が多いのみでなく、味が極めて不良であります、蔬菜などの肥料としては昔から忌まれて居つたが、昨今では落や南瓜や茄子に非常に賞用されて居るのであります、只之れを施す際に石灰を混合しないとい味が悪いのであります、甘藷などに施す場合でも石灰を混合しないと水臭くて喰へない薯が出来たものには閉口して居ります、夏蜜柑などに施す場合に鶏糞のみであると酢くて堪へられないが、石灰を少し多量に混合して施すと少しも酢味がない様になる、實に不思議である様な感じがします。

やあ仲々朝飯前の仕事が多過ぎた、話が遂花が咲いて永くなつて仕舞つたが、御腹が減つてから食事をすると不味いものでも美味く喰べられます、冷や飯に澤菴も山海の珍味よりも美味しく喰われます、いや之れでは營養が乏しいと思ふたら破れた卵でも御喰りなさい、自分で飼ふて居る鶏の卵で且つ破れ卵などは市へ出

しても値よく買ふては呉れまいから随意に御喰りなさい、御飯が濟んだら鶏舎の砂浴場の土を畚に入れて畑へ持つて行く、畑で仕事を済して家へ歸る時には、又畑の雑草混りの土を畚に入れて歸る、歸れるや否や眞先きに鶏舎の砂浴場へ持つて歸つた土を入れる、すると鶏は待つて居つたと云はん計りで砂浴場へ寄つて来る、草を啄むものもあるが土を食ふものもある、之れを捌くものもあれば、浴るものもある、斯ふした彼れの嗜好を見て居る主人は更に一層愉快であらう、又例に依つて中食を與へる、彼れは主人の此の難有き管理に對しては終生忘れないとは云はないが無言の内に感謝せざるを得ないと云ふ様な態度をして喜んで喰ふ、そこで主人は安心して晝飯を食ふ、暫く休んで又野良の仕事を、夕方歸つて来る時は必ず彼れの好む雑草や青菜を收穫して来る、又餌を與へる、運動場に終日排泄された糞の掃除をすると云ふ様に一時たりとも鶏のことを忘れてはなりません。

せん、其の餘暇には翌朝の青草も細切して餌に混合する計りに用意する、魚屑を與へる方であれば其れを煮沸して翌日の準備をする、薯や大根の屑があれば、魚屑の中へ入れて一所に煮る、大豆粕も同時に煮沸しても差支ない、斯ふして居る内に日はぼつ／＼暮れて行くのであるから、鶏舎を閉ちて寝に就かするのである此の時最も肝要なことは、産卵箱に寝て居る鶏はないかと云ふことを捜して見ることである、名古屋種と云ふ様な巢念の強い鶏は其の分離の方法が悪いと巢念に全部就いて産卵が非常に減少して來る場合がある、巢念の強い鶏を飼ふて産卵が浪を打つのは其の分離の方法が悪いからである、故に此の時巢鶏が一羽でも産卵箱に寝て居ることを發見したらすぐと捕へて別居するのがよい、巢鶏を分離する室は普通鶏舎と方向を異にした、明るい部家がよいから斯う云ふ室を拵へて其の内に收容する、收容した鶏には冷性の穀物を其の儘餌鉢に入れて與へる、水も與

へなくてはならぬが、動物質の餌丈けは與へない方がよい、又極端ではあるが全く斷食さしてもよい、此の方法は慘酷であるけれども稍や分離が早いので一般行はれて居る方法である。巢鶏の分離が濟んだなら閉戸して其の日の業務を終るのであります。

而して集卵は成る可く婦人の業務として行はする、集卵は勞力もかゝらぬのみが又一種云ふことの出來ない趣味がある、此の趣味は臆て研究心を喚起するに最も都合がよいから、婦女子の日課として遣らする、更に其の日の經濟を明かにする爲め一日中の餌の配合やら、卵の數迄で明かに日誌に記入させて其の經濟を明かにし翌日の計劃をするのであります、斯うして毎日の日課を怠らなければ、鶏はごうしても産卵して呉れなくてはならぬが、之れと同時に注意することは鶏の營養状態である、之れは前にも申上げた通り、白色の水様便が多ければ既に其の

鶏は蛋白質が過剰して居るのであるから、翌日は大豆粕なり鯨粕を減じなければならぬ、又産卵の最盛期が来ると随分多量の蛋白質成分を給與するも少しも乳白汁便はしない、例に依つて褐色の飴糞が仲々多い、けれども少しでも産卵が劣つて来ると又白糞が多くなる、故に飴色糞が多いと見たら鯨粕や大豆粕を増加し乳白汁糞が多ければ之れを減じて青葉を増す、飴色糞が多くて産卵の調子が悪ければ大豆粕や鯨粕を増加すると云ふ様に多少の斟酌をすることは最も必要であるけれども初めより蛋白質とか炭水化物とか七面倒な理論は持ち出さない方がよい、而して更に必要なことは此の鶏は將來産卵するかしないかと云ふことは假令脂肪鶏でなくても、腸満でなくとも、それを見別けることが必要である、それは後章に於て説明することに致します。

七、多産鶏と寡産鶏

そこで多産鶏と寡産鶏とを見別くることは、直接養鶏の經濟に關係を及ぼして來るのであります、けれども今日澤山飼養して居る養鶏家が、鶏を丈夫に育つことにのみ腐心して居つても、産卵の多い鶏を選ぶと云ふことを疎じて居る傾向があるのは遺憾であると思ふ、成る程強壯な鶏でなくては産卵が少い、又強壯でなくては育雛も困難であらうが、育て上げた所の鶏が卵を産まぬ系統では折角の計劃も失敗に終らなくてはならぬ、であるから最初より多産系の種卵を孵化して養育することが肝要ではあるが、前申し上げた通り現今の養鶏家では逆も理想的の原種は得られない、故に御互は漸次改良して目的に叶ふ所の品種に改良すること必要であることになる、申す迄でもなく一羽の鶏が一ケ年に一個餘分に産卵し

たとすれば百羽では百個である、それを金子に見積ると四、五圓になる、若しも諸君が十個の餘分な卵を産む鶏を百羽拵へたとすれば一ヶ年一千顆である、此の金子は實に四、五拾圓の大金になる、又此の四、五拾圓の金子は全く純益であることを辨へなくてはならぬ、して見れば多産鶏を選別することが最も簡單に出来るとすれば、それを行はない養鶏家は無能であると云はねばなりません。

元來多産鶏と寡産鶏とは恁麼處が著しく違ふかと云ふに、百個産む鶏と、二百顆産む鶏と比較して見れば其の體量に於て同一とせば百顆産む丈の飼料を餘分に喰はねばならぬと云ふことを想像するであらう、それも同じ胃腸で消化しなくてはならぬのであるから胃腸は更に健全でなくてはならぬ、而して食慾は一層旺盛でなくてはならぬ、食慾の旺盛なるものは素人でもよく判ります、餌を遣る時にも食慾の旺盛なるものは一番先きに餌鉢に寄り付くのが眞理であります、而し

て有無を曰はずに喰ふのも別に不思議もないのでありませう、けれども食慾のないものは一旦餌鉢に寄り付いても、直ぐと食ひ飽いて来る、餌を選び別けては喰ふ様なものは多産系ではない、兎に角食の太いのは太い丈澤山の卵を産む譯になるから、毎日給餌する際は、この鶏が一番餌を喰ふか、否かと云ふことを調べる而して毎夕どの鶏が嗉嚢を膨らして居るかと云ふことも調べる、食慾が盛んで餌袋を大きく膨らして居る鶏は結局澤山の卵を産む鶏である、斯ふ云ふ鶏の體形羽色を充分記憶して置くのであります。

鶏の食慾は終始一貫のものでない、産卵する時は多食し休産に際しては減食するものである、多食する際は血色もあり元氣もあるけれども食慾の退却するに従つて、意氣銷沈して血色を失ふことは當然の眞理である、故に食慾と血色とを對照して見れば其の鶏の能率を想像することが出来る、けれども最多産のものは食

慾が非常に旺盛なるに反し顔色褪色して一見病鶏の様に思はるゝ場合がある、之れは其の鶏が盛んに發情し産卵したが爲めに營養不良を來したのであるから別に不思議でない、又全く産卵退却して卵巢の發育が中止されたものは却て顔色鮮紅となつて如何にも産卵が旺盛であるが如くであるが、之れ等のものは全く元氣が乏しく且つ食慾が少いから判るのであります。

而して多産のものはどうしても身體の新陳代謝が甚だしい、又活動も甚だしいから従つて羽毛の磨滅が甚しい、色素も褪色するのであるから夏から秋へ掛けて體が非常にやつれて來る、換羽も一時的に來るので見素らしい鶏となる、之れに反して平素肉體の消耗して居らない、寡産鶏は羽色も美しく羽毛も正しく二歳、三歳の雌鶏と雖も當歳鶏の如くに見ゆるのである。

更に産卵旺盛なるものは之れに伴ふて交尾慾が旺盛である、交尾の盛んなもの

は必ず背部の羽毛が雄の交尾の爲めに傷けられて脱落する、同じ舎内の鶏であれば澤山産卵する鶏程克く交尾するから、克く脱落する、其の脱落の模様によつて産卵の多寡を律することが出来る。

顔面の皮膚が厚くて且つ鮮紅のものは生れ付き寡産のものである、けれども之れに反し皮膚薄くして血色なきは病的のもの多産のものとの二つに別れる。

冠は概して薄く柔軟なるものは多産系に多く厚くして堅く且つ小さいものは寡産のものが多い、嘴稍や長く顔面の幅狭きものには多産系と病的のものがある、病的のものは食慾なく歩行が機敏でない、而して後頭の發達甚だしきが多産系で其の少きは寡産鶏である、頸の細く長きものには多産鶏で太く短きものは寡産鶏である、胴の丸きもの脚の太きものは何れも寡産鶏であつて、胴の長きもの脚の細き短きもの等は多産鶏である、而して更に骨格の調査迄するならば恥骨の間隔

と、腹部の大きさを比較して見たい、恥骨の間隔は廣ければ廣い程多産鶏であるが、廣い上に恥骨の先きが軟らくて且つ薄いものでなくてはならぬ、斯ふ云ふものは眞の多産系統の鶏であるが、若しも其の鶏が病氣に侵されたり、或は老衰して脂肪肥満症となつたりした場合は産卵を中止する、又内臓に故障のあるものは多くは腹部が膨大して居るので一見すると多産鶏の様に見ゆるが仔細に之れを検査すると、内部に故障のあることが判る、けれども健康鶏に於ては腹部の發達は胃腸の活動を意味して居るものであると斷定してよいから之れが鑑定として胸骨の最後部即ち龍骨と恥骨との間隔を調査す。

即ち其の間隔の廣きものは胃腸の活動が烈しいのであつて、其の間隔狭きは活動鈍きを意味するのであります、巢鶏の恥骨と云ひ、龍骨と恥骨との間隔と云ひ何れも狭少であるから此の點より推斷するも其の間隔は産卵能力を意味するもの

であると云ふても差支ない、余は之れを従來の經驗より割出したる斷定的の數字を見出す爲めに、恥骨と恥骨との間隔を一分十二顆の能力とし、恥骨と龍骨との間隔一分を七顆の能力として其の鶏の産卵を鑑定する、即ち普通鶏(名古屋種)の恥骨の間隔を一寸とすれば百二十顆を意味し、恥骨と龍骨との間隔二寸とすれば百四十顆迄では産卵さする胃腸を有して居ることになる、故に兩者の數字を平均すると、百三十顆と云ふ數字になる、即ち其の鶏は現在に於て百三十個迄では産卵する遺傳的能力を保有して居ることになります。

而して胸骨の周圍に蓄積せらるゝ肉付も矢張り産卵能力を意味するのである。勿論肥滿に過ぎても疲瘠に過ぎても産卵はしない、所謂中肉の状態を常に維持して居るものでなくてはならぬ、其の中肉状態は何を標準として見別けるかと云ふに、之れは胸骨の最前部に觸れて見る、すると其の部の胸骨が突起の多いものと

少いものが判る、即ち突起の多いものは能力優秀なるもので少きものは劣等なるものであるであります。

八、鶏の更新は如何するか

育雛に成功しても、多産卵鶏の選抜に成功しても鶏の更新が圓滿に行はれなかつたなら、折角の計劃も永續が出来なくなる、故に採卵鶏は其の最盛期に於て滞りなく採卵して、最早收支の持てない様になつたら、直ぐと之れを肉用鶏として市場へ搬出せねばなりません、不良のものを一日置けば一日の損であり、三日置けば三日の損である、斯ふ考へて見ると早く更新用の若鶏を養成して、老鶏と更新せねばならぬ、其の更新法としては、年一回宛の場合と、二ケ年目に一回の場合とがあるが、本縣の名古屋種などを飼養する場合は三ケ年に二回の更新をする

のが最も都合がよい、而して此の場合何羽の雌数を拵へようかと云ふ計劃もして置かねばならぬ、而して毎年全部の鶏を一回に更新して仕舞ふか、或は二回に更新しようかと云ふことも豫め計劃しなくてはならぬ、之れを一回に全部を更新せんとする場合は、第一回の雛を秋期九月上旬に孵化すると假定すれば、其の雛は翌年の一月には最早産卵を開始する、而して其の鶏は其の年の九月頃には固有の體形體力を有して來て固有の卵を産卵するのであります、斯ふなれば最早種卵として採收してもよいが、まだ體力が衰へたと云ふ譯でないから引續き翌年の一、二月頃まで採卵鶏として飼養する、而して此の鶏の盛産期は何時迄續くかと云ふことを考へて見ると、普通の兼用種なれば産卵してより滿二ケ年、名古屋種などであると一ケ年半である、故に二、三月頃より採種して之れを孵化する、孵化した鶏は其の年九月が來ると産卵を初める、若鶏が産卵し初むれば老鶏を順次市場

へ出して肉用として賣却するのであります、斯ふなれば若鶏の全部産み揃ふて來る十月若しくは十一月には全く若鶏と更新せらるゝのである、而して其の次の更新は第五年目の二、三月頃になるのでありますから、第一回が秋子であれば第二回は春子、第三回は秋子と云ふ具合に更新することが出来ます。

而して最初幾何位の雛を購入してよいかと云へば、二十羽の雌鶏を拵へたいと云ふ場合は六十羽の雛を孵化し、六十羽の雛を得んとすれば百顆の種卵を採收せねばならぬ、百顆の種卵は二十羽の種鶏では一週間以内には到底採收し得られなから、二、三の當業者が共同して其の種卵を採收することにするのであります、而して出來上つた二十羽の雌は一ケ年間其の儘採卵してもよいが、それは仲々六ツケ敷い、故に産卵後三ヶ月毎に一回宛、例に依つて不産のもの多産のものとを區別する、此の際少くとも不良のものを五分の一位除却する、而して一ケ年を

經過した採種前に於て又一回寡産鶏の淘汰をする、そうすれば、最初の二十羽も其の三分の一若しくは二分の一を除却せらるゝことになる、けれども残つた二分の一は全く強壯なもので且つ多産鶏であるから、採種用としては申分のないものである、又一方にて育雛を行ふ場合に於ても、鶏舎の親鶏が少いので仕事が自由に行はるゝから、狭苦しい室内を利用しなくとも一室を専用して育雛することが出来るのである、兎に角二十羽飼の副業採卵家に於ても二室の鶏舎を所持し、其の一方は採卵舎兼種禽舎とし他の片方は採卵舎兼育雛舎と云ふ格向で、多少設備にも注意すると云ふことにして置くのである、斯ふすれば初めの年の採卵は一舎に各十羽宛を收容し、雛を養成するに至れば之れより不良のものを淘汰すると同時に、優良鶏のみを一舎に收容して一舎は之れを空室として茲で育雛するのである、而して其の雛が成長するに従つて雄は一ヶ月目に「ヌキ」として賣却し残りの

雌のみ養成する、多少の斃死数があつても豫定の鶏数は得らるゝから養育中不良のものは目に付き次第淘汰する、そうすれば産卵する迄其の室内で養育することが出来から其の儘其の室で養育する、産卵するに至れば老鶏を順次賣却して此の一舎を空室とし若鶏を二室に收容するのであります。

尙年一回宛の雛を養成して老鶏を二回に更新する方法も前と大差なく、只不良鶏を生後一ケ年目に半分更新するのであるから其の方法に於ては變りはないが、只年中間断なく産卵せしむるに都合がよいのと、常に若鶏が多いので比較的産卵が多いから經濟も豊かである譯である。

九、傳染病の豫防と手當

鶏の傳染病は人間の傳染病と彷彿たるものがある、家禽コレラに於けるが如く、

ジフテリ、痘瘡に於ても、胃腸病、心臓、腎臓、卵巢病に至るまで發生するので一々之れを説明し、治療法を述べるとは必要かも知れないが、元來一羽の價値が貳圓五拾錢か參圓である、斯ふ云ふ安い身體のものに澤山の費用を投じて治療に努めるよりは、寧ろ最初より以上各種の病氣に侵されない勘考をすることが最も大切のことである、夫れで最初より諸種の病氣に侵されない勘考としては、他より絶對的に若鶏や採卵鶏を購入しないと云ふことが肝心である、併し最初より一羽も買はないと云ふことは出来ないから、之れを購入するならば人工孵卵器にて孵化した雛を購入することにする、母鶏孵化の雛は同じ雛であるけれども購入することは止めて貰ひたい、なせならば若鶏とか親鶏とか母鶏雛とか云ふものは、往々悪性の傳染病を受けて居るものがある、母鶏雛などには少しもない様であるが既に孵化する當時母鶏の悪疾を受けて居る、病菌に限らず害蟲などは大抵親讓

りに受けて居るのであるから購入するのは危険である、人工孵化の雛であれば今では専門に雛計り孵化して居るものがある、其處では少しも種禽は飼養して居らぬから、只卵を種禽場より搬入する丈けである、卵には病菌などが付いて居ることとは少く、又其の憂のあるものは既に採用しないのであるから、其處で孵化した雛は無垢と曰はねばならぬ、併し遺傳的の病症は到底免れないから、若しも其の様なものがあつた時は全然其の子孫は採用しないことにすればよいのであります斯ふして孵卵器孵化のものを連年養成して行くと、其の鶏は勿論鶏舎には少しも病菌も害虫も発生することはないから、従て治療法を研究することも必要がないことになる、故に治療の研究より最初より発生しない様に注意した方がよい、けれども鶏には餌を與へなくてはならぬし、又人間も毎日其の部屋に這入らなくてはならぬ、其の際餌や、人間に付き纏ふて侵入することがある、此の際は仕方が

ない、病鶏を發見したが最後其の鶏を犠牲にして肉用として仕舞ふのである、若しも其の鶏が若くて惜しいとか損だからとか云ふて治療を加へたとすると、其の治療を行ふ際に往々病菌が人間の媒介に依り或は器物の媒介に依つて他に傳染するので、却て治療の目的が傳繁の動起となるのである、故に病鶏だと思ふた鶏はどしどし肉用として賣却し、而して育雛を奮發して行ふた方が最後の勝利を得るのであります。

(採卵養鶏 終)

大正十一年一月廿五日印刷
大正十一年一月三十日發行

不許
複製

發行所

定價金貳拾錢

(送料貳錢)

著者 高橋 廣治

發行者 武藤 瀧三郎

名古屋市外西枇杷島町中島一番地ノ四

印刷者 武藤 藏之助

名古屋市南區瑞穗町

養鷄之日本社

振替口座名古屋一八三九番

養鶏之鑑

定價拾錢 送料貳錢
拾部 壹圓
送料 拾貳錢

▲本誌は養鶏の經濟を明かにする日誌であります。
▲鶏數、編入及除却産卵數及飼料の配合並に購買販賣を巧みに一面に記入し得る至極便利なる日誌帳であります。

▲成功家は必ず金錢の出納を明かにする能力家であり、従て本鑑を用ひざる養鶏家は成功の要素が缺けて居る方であり、愛知縣立農事試験場養鶏部主任高橋廣治氏序 門脇三藏著

第三版 印刷中

銘鶏作出の原理

四六版三〇〇餘頁
凸版十二種 寫真版二種
木版三種挿入 紙函入 郵送料 壹圓五拾錢

銘鶏作出の問題は養鶏改造の中心問題也。斯界新進の著者、茲に日米の學理と實際に照合して銘鶏の眞意義を説き、實利養鶏の上より見たる銘鶏の必要を論じ、其の據て生る可き順序として蕃殖法、種鶏、種卵、育成法を説き、更に進んで出品鶏の秘訣、審査法に説き及ぶ。文章平易、引例豊富、初心家と雖も一讀直ちに其堂奥に入るを得可し。

發行所 養鶏之日本社

鶏去勢及肥育法

定價貳拾錢 送料貳錢

最も平易に其の方法を説き氏獨特の無血手術は譽て此の書中にあり

中央畜産會編纂

家禽標準

定價壹圓五拾錢 送料六錢
書留送料拾參錢

標準畫

天然色額面用

■名古屋種
■三河種

定價各一葉送料共拾八錢

愛知縣立農林學校校長山崎延吉先生序 高橋廣治著

拾版 金肥 屋內養鶏

四六版寫真凸版
參數百拾四頁
定價壹圓貳拾錢
送料六錢

本書

は夙に本邦斯界の權威者として令名噴々たる愛知縣立農事試験場養鶏主任高橋先生の十餘年間不撓不屈試験事業に没頭したる苦心の結晶物にして未だ知られざる動物の心理的研究を基礎とし巧みに孵化育雛採卵の目的を達せしむる最新唯一の養鶏書にして凡百の疑問は本書に因りて立所に解決せられ初心者は一讀直ちに老練家となり、失敗者は直ちに成功家となり移入國は變じて移出國となる今や斯界は本書に依て開拓され、本書の普及如何に依りて其國の前途を律し其國の活動をトする事を得べし。

發行所 養鶏之日本社

1000

實際的養鶏家の好伴侶

養鶏之日本

每月一回發行

大正三年創刊

- ◎養鶏之日本 は養鶏雜誌中日本最古唯一の技術雜誌であります、故に大養鶏家より少數の副業又は娯樂養鶏家迄が採つて直ちに應用することが出来る記事が満載されて居ります。
- ◎養鶏之日本 は家族的制度を以て組織されて居る養鶏雜誌であるから、讀者を本位として懇切丁寧を旨とし總てを處理して居ります。
- ◎養鶏之日本 は日本の國を丁抹の如く養鶏で作り上ぐることを云ふ意味から付けた名稱で、且つ實利養鶏の本場を發行して居る鶏界唯一の實利雜誌であるから飽く迄實利的に日本的に指導するのを天職として、愛知縣立農事試験場養鶏部を中心として活動し、飽く迄成功家たらしめんと獨特の養鶏日誌を配付して居ります。
- ◎養鶏之日本 は常に的確新なる世界の出來事並に學者實業家の有益なる時論を敏速に導報する養鶏家の唯一の顧問であるとの世評を賜つて無二の座右鑑として居ります。
- ◎養鶏之日本 は會員相互の連絡と意志の疏通を圖るが爲め毎年一回養鶏視察團を組織して東西先進地の養鶏状況を調査して各自の發展と向上とに全力を傾注して居るから愛讀者は必ず一村の中心人物となり養鶏成功者となるのであります。
- ◎養鶏之日本 は大要斯くの如き特殊の雜誌であります、故に營利を目的として居らない只斯界の向上發展を目的として居るのであるから、價格が極めて安く責任ある記事も豊富に登載することを主眼として居る珍しい雜誌であります。
- ◎定價 壹冊金二拾錢、郵税五厘、半年分前金一圓拾五錢、一ヶ年分前金二圓二拾錢、外國行壹ヶ年貳圓四拾錢(郵便不要)

養 鶏 之 日 本 社

終

